
モーニングセミナー

iPad で学ぶ耳鼻咽喉科感染症および 診療ガイドライン

山中 昇

和歌山県立医科大学 耳鼻咽喉科・頭頸部外科

米国 Apple 社製の iPad を代表とするタブレット端末は、あらゆる分野に急速に普及しており、医学の分野でも例外ではない。医学書・論文においても急速にデジタル化が進められ、デジタル文書のファイルフォーマットとしてデファクトスタンダードとなっているポータブル・ドキュメント・フォーマット (PDF) 化された書籍や論文が、パソコンや iPad 上でどこでも簡単に読めるようになった。確かに PDF 化された医学書や論文は便利であり、何十冊もの医学書や何百という医学論文を一台の iPad で参照することができるようになったことは、まさに隔世の感がある。しかし、このような医学電子書籍 (メディカル・デジタルブック) に求められるものは何か。単に PDF 化されたデジタルファイルをタブレット端末に載せたものは真のデジタルブックとは言えないと考える。私は急性中耳炎、急性鼻副鼻腔炎、急性咽頭・扁桃炎の診療ガイドラインをビジュアル・デジタル化し、デジタルブックの持つべき機能を盛り込んだ iPad 用プログラムを開発した。すなわち、症例の所見をタッチ入力することにより、自動的にスコアおよび重症度が計算され、治療アルゴリズム画面から、推奨抗菌薬とその投与量、投与における注意点、などの情報が参照できる。

本セミナーではこの iPad メディカルブック® (メディカル・デジタルブックの合成語) を中心に、耳鼻咽喉科感染症診療と肺炎球菌迅速キットやオゼックスなどの新規抗菌薬の位置づけなどを解説する。